

特集：実用的 e ラーニング環境の構築と運用

「遊誘財データベース」を活用した保育者養成

藤原 伸彦^{*}, 田村 隆宏^{**}, 木下 光二^{*}

Application of “Yu-yu-zai Database” to Kindergarten Teacher Training

Nobuhiko FUJIHARA^{*}, Takahiro TAMURA^{**}, Mitsuji KINOSHITA^{*}

1. はじめに

幼稚園教育では、「遊びを通しての指導を中心として」そのねらいが達成されるようにすることが重要である⁽¹⁾。したがって、遊びについて理解することは、幼稚園での教育に携わる保育者を目指す者にとって重要な課題である。だが実際には、遊びについて理解することは難しい。そこに遊びが存在するということが見過ごされてしまうこともある。時に「幼稚園では、子どもはただ遊んでいるだけ」と誤解されるのは象徴的である。また、遊びが重要であるということを頭では理解できていても、遊びは多様な要因が複雑に絡み合って展開するため、遊びの事例そのものを解釈し、どのような遊びが生じているかを理解することは難しい。まして、豊かな学びを誘発するような遊びを具現化するには高度な実践力が必要である。まだ十分な力量を持たない保育者を目指す教育実習生、あるいは保育初任者の実践では、子どもが本当に「ただ遊んでいるだけ」になってしまうことがある。したがって、保育者養成においては、豊かな学びを誘発する遊びに求められる要因を探り、それらについて保育者を目指すものに学ばせ、遊びについて理解させることができるような方法を確立することが必要となる。

そこで本研究では、鳴門教育大学附属幼稚園が取り組んできた「遊誘財」研究の知見を Web 上に構築した「遊誘財データベース」に蓄積し、保育者を目指す学生に利用させることによって、学生が遊びについて

どのように理解するかについて検討する。

2. 遊誘財と遊誘財データベース

2.1 遊誘財

鳴門教育大学附属幼稚園では、平成 16 年度から「遊誘財」をテーマとして研究を展開してきた。そこでは、「子どもと環境が相互に関わり合う中で、子どもの遊びや生活を誘発し、豊かな学びや充実した育ちへ導いていく」環境の特性や、展開された遊びや生活が誘発された要因について検討されてきた⁽²⁾。子どもが自発的に活動し環境と相互に関わるためには、子ども自身がその環境に精通し、そこで何ができるか、新たに何ができそうか、やりたいことを実現するためにはどうすればよいか、を知っている必要がある。それゆえ遊誘財研究では、環境というものを保育者による指導計画を基にその都度準備されるものとしてはとらえない。保育者から与えられた、すなわち子どもにとっては外的で自分たちの生活から切り離されており、しかもその都度提供される環境では、子どもが自発的に環境と関わりながら活動することは難しいからである。むしろ、子どもの学びが豊かになるよう配慮された、保育者による働きかけのもとで長い時間をかけて子ども同士が受け継いできた歴史性を帯びたものとして、環境を位置づける。そして歴史的に伝承・保存された環境と、その環境を通して行われる遊びがセットになって継承されているものを「遊誘財」と定

* 鳴門教育大学高度学校教育実践専攻教員養成特別コース (Special Teacher Training Course, Naruto University of Education)

** 鳴門教育大学人間教育専攻幼年発達支援コース (Early Childhood Education, Care and Welfare Course, Naruto University of Education)

受付日：2011 年 5 月 7 日；再受付日：2011 年 7 月 21 日；採録日：2011 年 9 月 20 日